

フランスのスタートアップ支援策と大企業の取組み —信州大学学生¹における起業意識の年次及び学部による比較—

関 利恵子・林 薫子²

目次

1. はじめに
2. 講義でのアンケート調査
 - (1) 調査概要
 - (2) アンケート結果
 - (3) アンケート結果分析および比較
3. 講義後におけるフランスのスタートアップ支援策の理解および起業に対する意識変化
 - (1) 講義でのフランスのスタートアップ支援策の説明と講義後の反応
 - (2) 講義でのスタートアップについての説明と講義後の起業について意識変化
4. むすび

1. はじめに

筆者等は2020年から信州大学経法学部での管理会計講義において、フランス企業およびスタートアップに関する講義前アンケートと講義後レポートによって、スタートアップの認知度及び意識変化をみてきた。今年度は、信州大学経法学部での3年次生対象の管理会計「フランスの企業経営戦略」(7

¹ 2023年度は、経法学部「管理会計」および全学教育機構「人生100年時代のライフデザイン」の2回の講義にて講義前アンケート及びレポートを実施した。

² 株式会社 NARAFRANCE 代表取締役 <https://narafrance.com/>

月3日)に加えて、全学教育機構でも1年次生対象の「人生100年時代のライフデザイン」(以下では人生100年時代と示す)における「フランスの働き方とスタートアップ支援：フレンチテックと起業」(7月5日)の講義を実施した。そこで本稿では、両講義の前後に実施したアンケート調査及びレポートでの学生のコメントをもとに、「フランスのスタートアップ支援策の理解」および「起業についての意識」について学年・学部での比較分析を実施する。

講義を担当した林は元フランス大使館職員であったが、現在は自ら株式会社を経営する起業家として、フランスの経済政策であるスタートアップ支援策 La French Tech (フレンチテック)を日本で広報している。そうした立場から、フランスでのスタートアップ支援策や、フランスの大企業とスタートアップの協業について本講義で説明した。なお、学生に馴染みの薄いフランスという国を扱うため、講義前アンケートでフランスのイメージ調査を行い、学生のフランスについての一般的な理解を探っている。

本稿の構成は、第2節で調査概要、結果および分析結果を示す。第3節では、講義前、講義後での学生のフランスのスタートアップ支援策への理解、そして起業に対する意識の変化を明らかにし、学生の講義後コメントを示す。第4節で、近年のわが国におけるスタートアップの状況にふれ、本稿をまとめる。

2. 講義でのアンケート調査

本節ではアンケート調査の概要と結果について述べる。なお管理会計講義のアンケート調査内容は昨年、一昨年実施したものとほぼ同内容なので比較検討のために、2023年、2022年および2021年の結果も掲載する。また人生100年時代のアンケート調査内容については、本年の管理会計講義のアンケート結果と比較のために同時に結果を表記する。

(1) 調査概要

①管理会計講義用アンケートについて

講義前調査は、インターネット調査サイト (Survey Monkey) の URL を e-slps³に掲載し、初回講義開始前の5月1日から講義当日まで回答期間を設けた。履修者数71名のうち68名(約96%)が回答した。アンケート質問数は7問で概ね5分以内で回答できる数にした。

実施期間 2023年5月1日～6月30日

調査方法 インターネット回答によるアンケートの実施。

アンケートサイト Survey Monkey⁴

回答者数 68名(回答率:96%)

②人生100年時代のライフデザイン講義用アンケートについて

講義前調査は、インターネット調査サイト (Survey Monkey) の URL を e-slps⁵に掲載し、初回講義開始前の4月12日から講義日当日まで回答期間を設けた。履修者数100名のうち87名(約80%)が回答した。アンケート質問数は7問で概ね5分以内で回答できる数にした。

実施期間 2023年4月12日～7月3日

調査方法 インターネット回答によるアンケートの実施。

アンケートサイト Survey Monkey⁶

回答者数 87名(回答率:87%)

(2) アンケート結果

本項では、アンケート結果を示す。

³ e-slps は信州大学の学生・教職員が利用する learning システムである。

⁴ 本調査は Survey Monkey (<https://jp.surveymonkey.com/r/shinshufrance2023>) を使用した。

⁵ e-slps は信州大学の学生・教職員が利用する learning システムである。

⁶ 本調査は Survey Monkey (<https://jp.surveymonkey.com/r/2023life100france>) を使用した。

質問1 フランスのイメージは？

図表1. 管理会計講義 3年間比較結果

2023年（複数回答可） 回答者数68名	2022年（複数回答可） 回答者数91名	2021年（単一回答） 回答者数69名
1. 食・食文化・農業 69%（47票）	1. 食・グルメ 85%（78票）	1. ファッション・ブランド 35%（25票）
2. ファッション・ブランド 68%（46票）	2. ファッション・ブランド 55%（51票）	2. 食・グルメ 34%（24票）
3. 観光 63%（43票）	3. 観光 54%（50票）	3. 観光 13%（8票）
4. アート 46%（31票）	4. アート 36%（33票）	4. アート 8%（6票）
5. スポーツ 19%（1票）	5. スポーツ 16%（15票）	5. スポーツ 3%（2票）
6. スタートアップ 3%（2票）	項目なし	項目なし
7. テクノロジー・技術 1%（1票）	7. テクノロジー・技術 1%（1票）	6. テクノロジー・技術 3%（2票）
8. その他 9%（6票） （暴動、歴史、ロマンチックな国等）	8. その他 2%（2票） （自然、農業）	7. その他 3%（2票） （西村ひろゆき）

図表2. 人生100年と管理会計講義における比較

人生100年時代（複数回答可） 回答者数87名	管理会計（複数回答可） 回答者数68名
1. ファッション・ブランド 86%（7票）	1. 食・食文化・農業 69%（47票）
2. 食・食文化・農業 75%（65票）	2. ファッション・ブランド 68%（46票）
3. 観光 66%（57票）	3. 観光 63%（43票）
4. アート 43%（37票）	4. アート 46%（31票）
5. スポーツ 11%（10票）	5. スポーツ 19%（13票）
6. テクノロジー・技術 5%（4票）	6. スタートアップ 3%（2票）
7. スタートアップ 0%（0票）	7. テクノロジー・技術 1%（1票）
8. その他 1%（1票） 哲学を重視する	8. その他 9%（6票） 暴動、歴史、ロマンチックな国等

質問2 フランスのビジネスのイメージは？

図表3. 管理会計講義3年間比較結果

	2023年 (単一回答) 回答者数68名	2022年 (単一回答) 回答者数91名	2021年 (単一回答) 回答者数69名
1. ブランド, 食品, 化粧品などの消費財産業	66% (45票)	72% (66票)	63% (43票)
2. 自動車や航空機などインダストリー産業	14% (10票)	15% (14票)	20% (14票)
3. ビジネスのイメージはない	14% (10票)	11% (10票)	15% (10票)
4. スタートアップやイノベーション産業	3% (2票)	2% (2票)	0% (0票)
5. その他	1% (1票) 芸術・観光	0% (0票)	2% (2票) 兵器, 大規模農業

図表4. 人生100年と管理会計講義における比較

フランスのビジネスのイメージは？	人生100年 (単一回答) 回答者数87名	管理会計 (単一回答) 回答者数68名
1. ブランド, 食品, 化粧品などの消費財産業	58% (50票)	66% (45票)
2. 自動車や航空機などインダストリー産業	27% (23票)	14% (10票)
3. ビジネスのイメージはない	14% (12票)	14% (10票)
4. スタートアップやイノベーション産業	0% (0票)	3% (2票)
5. その他	1% (1票) 武器産業	1% (1票) 芸術・観光

質問3 知っているフランス企業名をあげてください。

図表5. 管理会計講義3年間比較結果

2023年 (複数回答可) 回答者数68名		2022年 (複数回答可) 回答者数91名		2021年 (複数回答可) 回答者数69名	
1. Renault	14票	1. CHANEL	21票	1. CHANEL	22票
2. Louis Vuitton	9票	2. Renault	19票	2. Louis Vuitton	17票

フランスのスタートアップ支援策と大企業の取組み

3. CHANEL	8票	3. Louis Vuitton	17票	3. Renault	10票
4. Michelin	7票	4. Hermes	10票	4. Airbus	5票
(少数票) Hermes, Dior, Cartier, YSL, LVMH, Lacoste, Le coq, Loccitane, Airbus, Citroen, Peugeot, Sanofi, Atari, Pernod-Ricard, Axa, BNP, Société Général		(少数票) Cartier, Dior, YSL, Lancom, L'oréal, LVMH, Guerlain, Chloé, Lacoste, Ami Paris, Van Cleef & Arpels, Danon, Jean Paul Hévin, Peugeot, Airbus, Citroen, Michelin, Peugeot Motorcycle, Look, Time, Bugatti, Voodoo, Axa, PSG		(少数票) Hermes, Cartier, Dior, YSL, Baccarat, Waterman, LVMH, Spring court, Evian, Lacoste, APC, Agnesb, Peugeot, Citroen, Michelin, Total, Dassault, Axa	

図表6. 人生100年と管理会計講義における比較

人生100年時代講義（複数回答可） 回答者数87名		管理会計（複数回答可） 回答者数68名	
1. CHANEL	21票	1. Renault	14票
2. Louis Vuitton	16票	2. Louis Vuitton	9票
3. Hermes	12票	3. CHANEL	8票
4. Renault	9票	4. Michelin	7票
(少数票) Michelin, Airbus, Dior, Cartier, YSL, LVMH, Lacoste, Agnes B, Tiffany, Céline, Givenchy, Chloé, Pierre Hermé, L'oréal, evian, Peugeot, Citroen, Airfrance, Babolat, Figaro, PSG, Stade Reims		(少数票) Hermes, Dior, Cartier, YSL, LVMH, Lacoste, Le coq, Loccitane, Airbus, Citroen, Peugeot, Sanofi, Atari, Pernod-Ricard, Axa, BNP, Société Général	

質問4 スタートアップとは？

図表7. 管理会計講義3年間比較結果

	2023年 (単一回答) 回答者数68名	2022年 (単一回答) 回答者数91名	2021年 (単一回答) 回答者数69名
1. よくわからない。	50% (34票)	58% (53票)	47% (32票)
2. 知っているし、興味がある。	22% (15票)	22% (20票)	27% (19票)

3. 知っているが、働きたくない。	25% (17票)	16% (15票)	19% (13票)
4. 知っているし、働きたい。	1% (1票)	2% (2票)	7% (5票)
5. その他	1% (1票) 名前だけきいたことがある	2% (2票) 名前だけ知っている、スタートアップに就職したい	

図表 8. 人生100年と管理会計講義における比較

	人生100年時代 (単一回答) 回答者数87名	管理会計 (単一回答) 回答者数68名
1. よくわからない。	83% (71票)	50% (34票)
2. 知っているし、興味がある。	10% (9票)	22% (15票)
3. 知っているが、働きたくない。	6% (5票)	25% (17票)
4. 知っているし、働きたい。	1% (1票)	1% (1票)
5. その他	0% (0票)	1% (1票) 名前だけ聞いたことがある

質問5. スタートアップのイメージは？

図表 9. 管理会計講義 3年間比較結果

	2023年 (単一回答) 回答者数68名	2022年 (単一回答) 回答者数91名	2021年 (単一回答) 回答者数69名
1. よくわからない。	42% (28票)	49% (45票)	44% (30票)
2. 不安定	32% (22票)	26% (24票)	30% (21票)
3. 将来性がある	25% (17票)	22% (20票)	24% (17票)
4. その他	1% (1票) 安定しなくても活動的に成長する	2% (2票) 急成長する、重労働でプライベートがなさそう	2% (1票) 短期的に急成長できる

図表10. 人生100年と管理会計講義における比較

	人生100年時代（単一回答） 回答者数87名	管理会計（単一回答） 回答者数68名
1. よくわからない。	71%（62票）	42%（28票）
2. 不安定	18%（16票）	32%（22票）
3. 将来性がある	10%（9票）	25%（17票）
4. その他	0%（0票）	1%（1票） 安定しなくても活動的に成長する

質問6 あなたは将来起業したいですか？

図表11. 管理会計講義3年間比較結果

	2023年 （単一回答） 回答者数68名	2022年 （単一回答） 回答者数91名	2021年 （単一回答） 回答者数69名
1. はい	25%（17票）	24%（22票）	25%（18票）
2. いいえ	75%（51票）	76%（69票）	75%（51票）

図表12. 人生100年と管理会計講義における比較

	人生100年時代（単一回答） 回答者数87名	管理会計（単一回答） 回答者数68名
1. はい	14%（12票）	25%（17票）
2. いいえ	86%（75票）	75%（51票）

質問7 知っているスタートアップ企業はあるか？

図表13. 管理会計講義2年間比較結果

	2023年（単一回答） 回答者数91名	2022年（単一回答） 回答者数91名
ない	87%（59票）	89%（81票）
ある	13%（9票）	11%（10票）
知っている企業名	メルカリ, スマートニュース, SANU, atama plus,	スマートニュース, メルカリ, フードテックキャピタル,

	Epic games, Uber, Airbnb, Autify	D-Standing, COVER, ANYCOLOR, Mittrativ, HIKKY
--	-------------------------------------	---

注 2022年からの質問のため2021年の結果はない

図表14. 人生100年と管理会計講義における比較

	人生100年時代（単一回答） 回答者数87名	管理会計（単一回答） 回答者数91名
ない	92%（80票）	87%（59票）
ある	8%（7票）	13%（9票）
知っている企業名	Google, Amazon, Airbnb, Open-AI, DMM.com, ユーグレナ	メルカリ, スマートニュース, SANU, atama plus, Epic games, Uber, Airbnb, Autify

(3) アンケート結果分析および比較

まず質問1については、管理会計の3年間の結果でも人生100年時代でも、「食・食文化・農業」, 「ファッション・ブランド」そして「観光」が不動のトップスリーといえる。ただ人生100年時代では、「ファッション・ブランド」が86%で圧倒的な1位であり、これがのちの質問3の「知っているフランス企業名」の結果に反映している。また続く質問2のフランスのビジネスイメージについても、圧倒的に「消費財産業」である。管理会計、人生100年時代ともに、14%の学生が「フランスにビジネスのイメージはない」で一致しているのも興味深い。

質問3の「知っているフランス企業」については管理会計の結果では、2021年、2022年ともトップのCHANELを破り、1位はRenaultとなった。結果として、CHANEL, Renault, Louis Vuittonは不動のトップスリーといえるが、今年は1位がRenault, そして4位にタイヤのMichelinがはいており、フランスといえば「自動車産業」というイメージを持つ学生が多

かったのかもしれない。また人生100年時代の結果では、トップスリーがCHANEL, Louis Vuitton, Hermesとなり、Renaultは4位であった。人生100年時代の学生はフランス企業といえば、ファッションブランドというイメージが強いのか、それ故に質問1についても、「ファッション・ブランド」が圧倒的な1位となっている。

なお「スタートアップ」については、質問4によれば、管理会計の学生では「スタートアップ」をよくわからないと答えた学生の割合が2022年より2023年は8ポイント減少している。これは「スタートアップ」についての学生への認知度が高まった証拠ではあるが、経法学部の学生の半分しかスタートアップを理解していないのはやはり学生のスタートアップへの興味の低さ、また情報発信の仕方に問題があるのではないかと考えられる。

一方、人生100年時代の学生は83%がスタートアップを認知していない。大学1年生、そして教育学部、医学部や理系学生など社会科学系の学生が少ないという事実を踏まえても、やはりこの認知度の低さは学生に興味を持たせるような情報発信の仕方に工夫が足りない証拠ではなからうか。

またそれに併せて質問5について「スタートアップのイメージ」についてはよくわからないと答えた学生が管理会計では42%、人生100年時代では71%いる。そして質問6の「あなたが将来起業したいですか？」については管理会計では昨年、一昨年同様、約4分の1の学生が起業したいと答え、約4分の3の学生が起業したくないと答えている。この割合は他大学の調査でもほぼ同じ割合を示しており、日本の学生の平均的な考え方であると思われる。それに比べて、人生100年時代の学生では、起業したいが14%、起業したくないが86%である。これはこの学生が全学部所属であり、特に、教育学部、医学部等の学生は将来の専門職（教師や医師など）を目指しており、起業をイメージできない可能性がある。この結果については講義後の変化として、次節で考察する。

3. 講義後におけるフランスのスタートアップ支援策の理解および起業に対する意識変化

(1) 講義でのフランスのスタートアップ支援策についての説明と講義後の反応

2023年1月、スタートアップ育成5ヶ年計画の一環として、経済産業省は起業家1000人をフランスやイスラエルなどに派遣すると発表した⁷。その発表後、「スタートアップをなぜフランスに派遣するのか？アメリカじゃないのか？」という意見が多く聞かれ、一般的に、フランスが経済政策であるスタートアップ支援策「French Tech」（フレンチテック）を実施し⁸、成果をあげていることは、日本ではほぼ知られていない事実が判明した。

実はフランスは2013年より経済政策としてスタートアップ支援策「French Tech」（フレンチテック）を実施しており、すでに10年経過している。その結果、現在フランス国内のスタートアップは約20000社といわれ、フランスのユニコーンの数も2022年で27社あるといわれている。それは2019年に掲げられた目標「2025年までにユニコーン25社を誕生させる」を上回った結果⁹といえる。

このように一定の成果をあげているフランスのスタートアップ支援策だが、なぜ10年前から取り組まなければならなかったかの理由について筆者は講義のなかで、「フランスの経済に対する危機感があった」と説明した。つまり、今回の学生のアンケートでも明らかになったように、フランスといえば、「ファッション、食、観光、自動車産業」のイメージは高いが、「イノベーションやテクノロジー」のイメージはない。つまり、10年前当時でいえ

⁷ 「経産省、起業家1千人を仏とイスラエルなどに派遣 新興企業の育成へ」（朝日新聞デジタル2023年1月8日公開記事 <https://www.asahi.com/articles/ASR184HSWR18PLFA001.html>）2023年12月1日閲覧

⁸ 信州大学経法論集 第12号、52-54頁

⁹ '100 licornes françaises en 2030 ?'（Capital 2022年6月17日公開記事 <https://www.capital.fr/economie-politique/100-licornes-francaises-en-2030-1439413>）2023年12月1日閲覧

ば将来のイノベーションやデジタル産業が育たない懸念があり、このまま「伝統」産業に頼っていても将来性が弱いと認識し、つまり将来のフランス経済に危機感をもった。その打開策として、新しい産業、イノベーションを生み出すにはまず「スタートアップ」を創出し、そしてその中から有望な「ユニコーン」を生み出そうという目標をもち、このスタートアップ支援策を経済政策の柱においたのである。

具体的にはこのスタートアップ支援策「フレンチテック」で政府は旗振り役であり、産官学での役割分担が明確である。スタートアップの公的金融支援はBPIFrance（フランス国立投資銀行）が担い、国際的プロモーション（例えば国際的な展示会の出展や各国のエコシステムとのビジネスマッチングの実施）はBusiness France（貿易投資庁ビジネスフランス）が担う。このビジネスフランスは世界各国にあり、日本では在日フランス大使館の中にオフィス¹⁰を構えており、日本でのフランススタートアップのプロモーションを担っている。

また産業界としては、フレンチテックでは特にフランスの大企業がオープンイノベーションを推進し、そこで大企業とスタートアップの協業を実施している。まさに今回の学生アンケートで「知っているフランス企業」として、名前があがるLouis Vuittonを中心とするLVMHやRenaultなどがスタートアップと積極的に協業している。

特に本講義ではLVMHというブランド・ラグジュアリー産業の世界的リーダー企業が、一見、まったく関係ないようなイノベーションやテクノロジーに注力して、その分野のスタートアップと積極的に協業している事実を説明した。実際筆者は2023年6月にパリにて開催されたスタートアップとオープンイノベーションの国際的展示会であるVIVATECHNOLOGY（ビバテクノロジー）¹¹を訪問し、LVMHのグループCIO¹²と面談しており、その際、「LVMHのスタートアップ支援はスタートアップに単に投資して、お

¹⁰ 林は2003年から2020年までこの組織に上席貿易担当官として従事した。

金をだすのではない。LVMHがそのテクノロジーを認め、購入し、顧客となり、よりブラッシュアップし、一緒にLVMHグループのイノベーションをつくるファミリーになる」と説明された。

具体的にはこの展示会の中でLVMHは「イノベーションアワード」を開催し、LVMHがあげたテーマにあったスタートアップが世界中から応募し（2023年で世界75ヶ国から1300社以上）、LVMHによって選ばれたスタートアップが展示会にファイナリストとして18社のみ出展し、そのなかから大賞のスタートアップが1社選ばれる。この大賞やファイナリストに選ばれたスタートアップへも賞金ではなく、LVMHの所有するインキュベーションへの入居やLVMH内のグループ企業等へのサービスや技術提供の機会が与えられる。ちなみに2023年の大賞受賞企業は、Save Your Wardrobeという服やバッグのメンテナンスや修理依頼を管理するデジタルプラットフォームを提供するスタートアップである¹³。つまり、それはLVMHのブランド製品をより長く丁寧に修理しつつ使用するためのデジタルプラットフォームでまさにLVMHの伝統とイノベーションが融合したスタートアップである。このように、「フランスのスタートアップ支援策」については、もちろん政府主導ではあるが、その重要なアクターは大企業、そして一見するとスタートアップと関係のなさそうな大企業こそがスタートアップと協業して、新しいビジネスを生み出している点を講義で強調した。

この講義を通して、学生の反応は、フランスが自ら危機感をもって、ス

¹¹ VIVATECHNOLOGY 公式サイト <https://vivatechnology.com/>（2023年12月1日閲覧）2023年6月14-17日までパリの展示会場ポルト・ドゥ・ベルサイユで開催。15万人が来場した。

¹² Franck Le Moal 氏, Group IT Director, CIO, LVMH

¹³ 「Save Your Wardrobe がビバ・テクノロジーで2023 LVMH イノベーションアワードの大賞を受賞」(LVMH 日本語公式サイト 2023年6月15日公開記事 <https://www.lvmh.co.jp/%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%82%B9%EF%BC%86%E8%B3%87%E6%96%99/%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%82%B9/save-your-wardrobe-grand-gagnant-du-lvmh-innovation-award-a-viva-technology/>) 2023年12月1日閲覧

スタートアップ支援策に10年も前から取り組んでいることに驚き、さらに素晴らしい取組みであると評価した。それに比べて、例えば現在日本が実施している「スタートアップ育成5ヶ年計画」についてはほぼ知られていないので日本の「アピール下手」であることも指摘している。また経済的な閉塞感については日本もほぼ同じ状況なのだから、日本はもう手遅れなのでは（フランスはすでに10年前から取り組んでいることに対して）、という厳しい意見もあった。

またLVMHのスタートアップ支援については、とてもスタイリッシュなアピールで若者に訴えるプロモーションだとし、またスタートアップの展示会VIVATECHNOLOGYがあることで、スタートアップの存在自体の知名度と、スタートアップ関係者のモチベーションがあがるのでは、と展示会の効果にも言及している。さらにはLVMHの取組みを通して、大企業がスタートアップを将来のライバルとして潰すどころか、投資やお金だけでなく、協業して支援することが、日本の大企業ではなかなかできないことと感じ、そのようなフランスの大企業のメンタリティを知りたいとの意見もあった。あるいは、大企業とスタートアップがWin-Winの関係といって「協業」しているが、実は大企業による優秀なスタートアップの「囲い込み」ではないのか、という疑問の声もあがった。

本講義でフランスのスタートアップ支援策「フレンチテック」の紹介とフランス大企業の取組み（LVMHの事例）について、学生は単純にフランスでの事実の理解だけでなく、日本の現状と比べてなにが違うか、そして日本の政府、大企業と比べてなにが違うかにまで及び、スタートアップ支援策と大企業の取組みが遠い国フランスのことではなく、自分事として捉えることができたようである。

(2) 講義でのスタートアップについての説明と講義後の起業についての意識変化

学生の「スタートアップ」の理解については、講義前アンケートの結果か

らもわかるように、「スタートアップについてよくわからない」という学生が管理会計講義で50%、100年時代講義で83%もいたことから講義では以下のように、簡潔にわかりやすくスタートアップについて説明した。

- 創業2-3年で、社会問題を解決するようなイノベーションがあり、新しいビジネスモデルをうみだす。つまり既存のビジネスモデルではなくゼロから創造する。
- 既存のビジネスモデルを活用し、じっくり成長する「ベンチャー企業」とゼロからビジネスモデルをつくり急成長する「スタートアップ」は違うものである。
- 非上場で評価額10億ドル以上のスタートアップをユニコーンという。
- 短期間で急成長はするが、安定性は難しい。
- スタートアップはずっとスタートアップのままではいられない。成功すればユニコーンになったり、あるいは上場してスケールアップになったりする。つまり成功しなければ、消えていくのがスタートアップである。

以上のようなスタートアップの説明を講義で実施した後、管理会計および人生100年時代の講義後レポートで以下の質問をした。

「講義後、あらためて質問しますが、あなたはスタートアップを起業したいですか？もししたいならばその理由とどんな業種のスタートアップを起業するか？もししたくないならばその理由を書いてください。」

その結果、以下の結果が得られた。なお比較のために講義前アンケートでの同内容の質問結果も再掲する。

図表15. 管理会計：講義前後比較

	2023年 講義後レポート 回答者数61名	2023年 講義前アンケート 回答者数68名
1. はい	31% (19票)	25% (17票)
2. いいえ	69% (42票)	75% (51票)

図表16. 人生100年時代：講義前後比較

	講義前アンケート 回答者数87名	講義後レポート 回答者数78名
1. はい	14% (12票)	26% (20票)
2. いいえ	86% (75票)	74% (58票)

その結果、管理会計、人生100年時代とも講義後レポートの調査では、講義前アンケートよりも、起業したい学生が増えた。管理会計では6ポイント、人生100年時代では12ポイントの増加である。これは、講義前のスタートアップの認知度も管理会計で50%だったのに対して、人生100年時代では83%の学生が「知らない」といっていたこともあり、「スタートアップ」を知らなかった学生がはじめて説明をきいて、スタートアップを知り、これまで考えたこともなかった「起業」についても興味をもった心境の変化の結果である。なお人生100年時代の講義後レポート調査の結果が、これまでの信州大学でのアンケート結果の平均である「起業したいが25%、起業したくないが75%」に近い答えになったことが興味深い。

なお、管理会計の学生には数名留学生がいるがその留学生全員が「起業したい」と答えており、具体的でかつ現在の社会問題を解決するための起業が身近にあることがわかる。また今回、スタートアップの意義が「これまでになかった社会問題解決のための起業」と説明したことにより、起業を希望する学生の起業の理由も、環境や教育や農業の高齢化などの社会問題を解決するために起業したいとの理由が目立った。

また講義をきいて、「スタートアップは安定しない」と理解したことから、自分は安定を求めるため起業はしない、という意見や、また自分にはリーダーシップがない、リーダーを支える仕事をしたいから、という理由で起業はしないという意見も目立った。

さらに、なりたい職業があるから起業はしないという意見も多く、特に人生100年時代の学生は、医学部、教育学部等の学生も多く、医師や看護師、

あるいは教師になるという目標があるので起業は考えられないという理由も多くみられた。しかしながら、教育学部で学んで教師になったあと、日本の教育の問題点を理解した後、ITを活用した教育系スタートアップを起業したいという意見や、看護師の経験を活かしながら、入院する子供の教育サポートをする会社を起業したいなど、専門性をいかした起業を考える学生の意見もあった。

また起業したくない理由として、自分で起業しなくても大企業に勤めても社会貢献はできるというものや、企業内の新規事業開発や社内起業家としての道もあるのでは、との意見もあった。特に、社内起業家については、日本で欧米と同じような起業家を育成するよりも社内起業家を育てた方が効果があるのではという見方もあるので、それを学生自身が気づいたことに大変価値があると思われる。

4. むすび

本稿では管理会計及び人生100年時代のライフデザインの講義でのアンケートと講義後レポートをもとに学生のスタートアップに対する関心ならびに意識変化について分析を試みた。

今年度の両講義でのアンケート結果において、一番の違いは、スタートアップの認知度であった。管理会計の学生（主に3年生，経法学部）で50%，人生100年時代の学生（主に1年生で全学部）で83%がスタートアップを知らなかった。しかし、講義の後、スタートアップを知った後の起業をしたい学生は26%となり、ほぼ経法学部の例年の平均となった。つまり、まずはスタートアップを知ることが重要であることを改めて認識した。

両講義ではフランスのスタートアップ支援策と特にフランスの大企業とスタートアップとの協業、また、スタートアップについて基本的な情報を説明した。そのことで、学生はスタートアップとは何か、そして、日本のスタートアップ政策、その比較としてフランスの取組みを理解し、さらには日本の大企業とフランスの大企業の違いについても、考えるきっかけを与えた。そ

れによって、自分は起業したいか、したくないかと自分事で「起業」について考え、もっといえば自分の「働き方」を考える機会になったと考えられる。そのような考えるきっかけとして、スタートアップのプラス面とマイナス面を正しく具体的に伝える必要があり、これから多様な社会で生きる学生にとって、社会の多様性を知るために日本だけではなく、海外の情報を提供することも重要な意味があると言える。

わが国では、6月16日に「経済財政運営と改革の基本方針2023」（以下では「骨太の方針2023」と示す）が閣議決定された。骨太の方針2023では、「新しい資本主義」の実現に向けた構造的賃上げの実現、人への投資、分厚い中間層の形成に向けた取組や、GX・DX、スタートアップ推進や新たな産業構造への転換など、官と民が連携した投資の拡大と経済社会改革の実行に向けた基本方針を示す」とし、「新しい資本主義」では人への投資、GX・DX、スタートアップに力点を置いている¹⁴。そして、スタートアップの主な施策の1つにはグローバルスタートアップキャンパスの推進があり、企業の参入・推進・退出の円滑化、スタートアップ育成の観点から規制改革の推進、知的財産の保護・活用等の取組むとしており、政府は大学でのスタートアップを後押ししている。

スタートアップ機運を高めるため教育の場では、起業家精神を養おうとする動きが広がっている。例えば、名古屋大学では2023年度4月からアントレプレナーシップ教育を全学部生の必修科目にしており、1年次全員を対象としている。さらに文部科学省では大学と連携して小中高生を対象としたアントレプレナー教育を始めている¹⁵。また信州大学でも学内に2017年10月に知的財産・ベンチャー支援室ベンチャー支援グループを立ち上げ、研究成果や活動成果をもととした信州大学発ベンチャーを支援しており、2023年10月現在で18社が信州大学発ベンチャー企業として認定されている。そうした取組

¹⁴ 内閣府「経済財政運営と改革の基本方針2023」 URL <https://www5.cao.go.jp/keizaisimon/kaigi/cabinet/honebuto/2023/decision0616.html>（2023年10月15日閲覧）

¹⁵ 日本経済新聞 2023年9月20日朝刊。

の成果が長野県のスタートアップ企業増加に大きく寄与しており、10月14日付けの日本経済新聞によれば、地方の新興企業が5年間で5割増加し¹⁶、長野県は8割増加で全国4位となり、大学発ベンチャーの中でも、信州大学の積極性が際立っている¹⁷。

こうした状況からも、1年次にスタートアップについて伝えることは重要であるといえる。例えば、人生100年時代では教育学部の学生が多いことから、フランスの教育制度や就職活動についても説明し、中学2年生でインターンシップを体験して職業選択に役立てることや、フランスでは新卒一括採用でなく日本のような就職活動ではないことも紹介した。そのことによって、学生は日本での働き方、就職活動の方法がすべてではなく国によって様々であることを実感・理解したのではなかろうか。今年度の両講義ではフランスを取り上げたが、日本のみならず外国について興味を持ち、それが多様な価値観や働き方につながればと考える。

関 利恵子（信州大学経法学部 教授）

林 薫子（株式会社 NARAFRANCE 代表取締役）

参考文献

朝日新聞「経産省、起業家1千人を仏とイスラエルなどに派遣 新興企業の育成へ」（朝日新聞デジタル2023年1月8日公開記事）<https://www.asahi.com/articles/ASR184HSWR18PLFA001.html>

Capital ‘100 licornes françaises en 2030 ?’ (Capital 2022年6月17日公開記事)

<https://www.capital.fr/economie-politique/100-licornes-francaises-en-2030-1439413>

¹⁶ 5年間増加率第1位は奈良県であり2倍に増加、2位香川県92.3%、3位埼玉県78.4%、4位長野県77.8%となっている。

¹⁷ 日本経済新聞 2023年10月14日朝刊

LVMH「Save Your Wardrobe がビバ・テクノロジーで2023 LVMH イノベーションアワードの大賞を受賞」(LVMH 日本語公式サイト 2023年6月15日公開記事)

<https://www.lvmh.co.jp/%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%82%B9%EF%BC%86%E8%B3%87%E6%96%99/%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%82%B9/save-your-wardrobe-grand-gagnant-du-lvmh-innovation-award-a-viva-technology/>

LVMH「LVMH が Viva Tech（ビバテック）2023のゲストを乗せて，“Dream Box”と“LVMH Court”で夢の旅に出発」(LVMH 日本語公式サイト 2023年6月16日公開記事)

<https://www.lvmh.co.jp/%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%82%B9%EF%BC%86%E8%B3%87%E6%96%99/%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%82%B9/lvmh-embarque-les-visiteurs-de-vivatech-2023-pour-un-voyage-au-coeur-du-reve-avec-la-dream-box-et-le-lvmh-court/>

内閣府「経済財政運営と改革の基本方針2023

<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/honebuto/2023/decision0616.html>

日本経済新聞「College edge 起業家精神 教育で養う」(2023年9月20日).

日本経済新聞「データで読む地域再生 地方の新興企業5割増」(2023年10月14日 朝刊).

関利恵子・林薫子(2022)「フランス「ファッションと芸術」から「イノベーションとスタートアップ」の国へ」(研究ノート),『信州大学経法論集』第12号, pp.47-62.

関利恵子・林薫子(2023)「起業とスタートアップに対する不安と期待」(研究ノート),『信州大学経法論集』第14号, pp.83-95.

信州大学学術研究・産学官連携推進機構(SUIRO)知的財産・ベンチャー支援室ベンチャー支援グループ (<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suirlo/irl/venture.html>)